演題名 車いすの適合支援 ～病院・老健・在宅～

御所属 永生病院

岩谷 清一 講師

内容

【1. シーティング・クリニックの目的】

病院にある車いすが「椅子」としての機能を持ち合わせていないために生じる諸問題を解決するため、平成15年より、車いす利用者の身体機能・生活環境に配慮した座位保持姿勢を提供できるよう、シーティング・クリニック（車いす適合サービス）を開始した。現在では入院から在宅までの一貫した車いす適合サービスの構築を目指している。その取り組みにおける問題点として、各々の事業所の体制や制度の違いにより、車いす適合サービスの質が異なってしまうことがあげられる。

【2. 症例紹介】

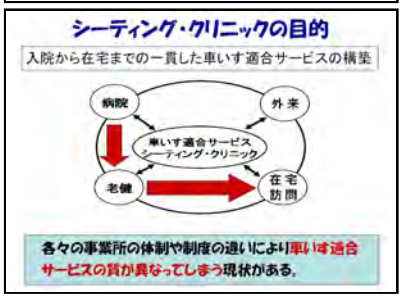
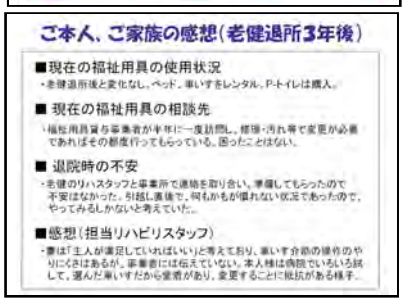
70歳・男性。脳出血による左片麻痺例。回復期リハビリテーション病棟から介護老人保健施設を経て在宅へと生活の場を移された。回復期病棟では車いす適合の際、モジュラー車いすを用いたが、老健では、普通型車いすで対応せざるを得なかった。在宅復帰の際には、介護保険制度を用い、回復期病棟で使用していた車いすの設定にすることができた。以下は各事業所におけるOTの対応と在宅での様子。

【3. 病院のOTから老健のOTへの申し送り】

普通型車いす適合後、ご本人と老健へ見学に行った。車いす駆動やトイレ動作の確認をし、担当者へ報告した。使用していたモジュラー車いすの設定を申し送った。

【4. 老健での経過と対応】

老健入所中のADLは病院入院中と変化ないが、駆動時の前滑りが著明。入所中に賃貸マンションへの引っ越し案が浮上。決定前に家屋評価を実施し、退所が決定。再度シーティングを含めた在宅設定実施した。

【5. 老健退所3年後の在宅での様子】

現在の福祉用具の使用状況：老健退所後と変化なし。ベッド、車いすをレンタル。P-トイレは購入した。現在の福祉用具の相談先：福祉用具貸与事業者が半年に一度訪問し、修理・汚れ等で変更が必要であればその都度行ってもらっている。